

第3回 国連防災世界会議

The Third World Conference on Disaster Risk Reduction

■開催時期

- 2015年3月14日(土)～18日(水)

■開催地

- 宮城県仙台市(公募により選定。2013年5月14日に閣議了解。)

■経緯

- 国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議。
- 日本は、第1回会議(1994年, 横浜), 第2回会議(2005年, 兵庫)ともホスト。第2回会議では、防災の国際的指針である「兵庫行動枠組」を策定。
- 第67回国連総会決議(A/RES/67/209)において、2015年早期の日本開催が決定(2012年12月)。
- 開催都市を仙台市とし、国連、仙台市、その他関係機関と緊密な協力の下、全府省庁一体となって取り組む旨閣議了解(2013年5月)。
- 第68回国連総会決議(A/RES/68/211)において、日程、開催地など会議の詳細について決定(2013年12月)。

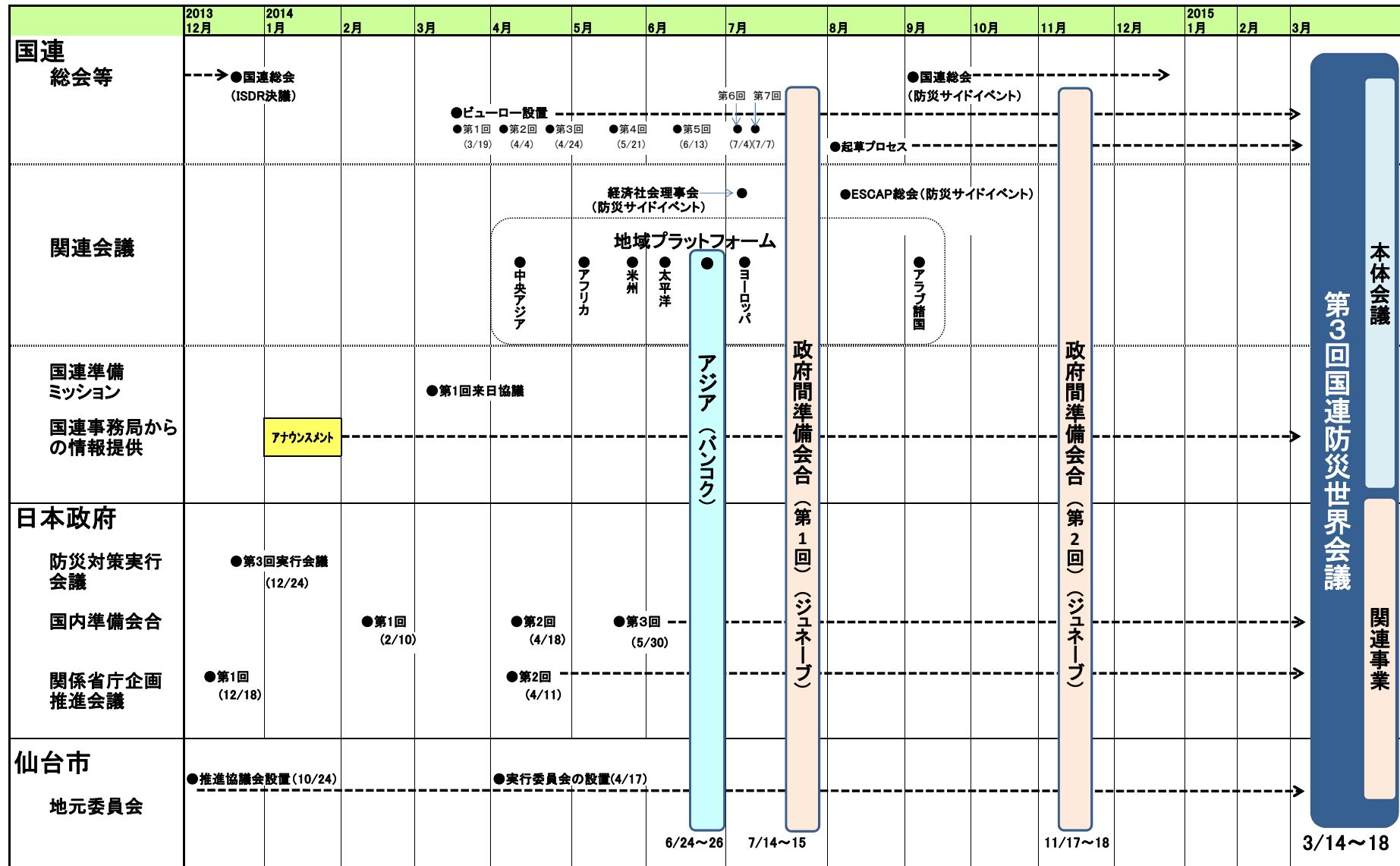
■目的

- 兵庫行動枠組の実施状況の評価の完了
- 兵庫行動枠組の実施における各国・地域の戦略・制度及び防災計画を通じて得られた経験、そこから得られる提言並びに関係地域協定の検討
- ポスト兵庫行動枠組の採択
- ポスト兵庫行動枠組実施のためのコミットメントに基づく協力の在り方の特定
- ポスト兵庫行動枠組の定期的実施状況評価の在り方の決定

■我が国としての会議のねらい

- 国際協力及び国連加盟国の国内政策における防災の主流化を促進する。
- ポスト2015年開発アジェンダに防災を位置づけるための国際的機運醸成の場とする。
- 東日本大震災その他の自然災害を通じた我が国の防災・復興の知見を広く世界各国に発信・共有する。
(東日本大震災被災地の復興状況発信等も含む。)

第3回国連防災世界会議 準備スケジュール



(必要に応じて)
3/13 政府間準備会合(第3回) 於: 仙台

国連防災世界会議仙台開催の特徴

1. 東北の被災県、大学、経済界、NPO・NGO等との連携

東北の被災県(青森、岩手、宮城、福島)、宮城県内の被災自治体、大学、地元経済界、NPOやNGO等との連携。会議開催時には、これらの機関と連携した関連事業等を実施。

⇒10月には官民連携の地元準備組織「第3回国連防災世界会議仙台開催推進協議会」を設立

⇒仙台・東北の復興や防災の取り組みを専用ホームページで発信。今後英語サイトもOP予定。

2. 本体会議の会場として、新コンベンション施設を活用

本体会議の会場として、仙台国際センター及び隣接地に新設する「(仮称)国際センター駅周辺地区コンベンション施設」を活用。新施設は、2014年3月着工、同年12月竣工予定。

3. 関連事業を市中心部や東北の被災各県で実施

シンポジウム・セミナー・展示などの関連事業は、本体会議会場に近接する東北大学川内萩ホールのほか、市内の各公共施設で実施。あわせて、東北の被災各県でも同時開催を企画。

4. 多様な視察プログラムや歓迎事業

沿岸部の復興プロジェクト、東北の魅力ある観光資源など多様な視察プログラムを準備。地元の食材・文化体験なども提供。



仙台国際センター



外観

新展示施設

仙台市の開催支援・
情報発信のページ

内観



関連事業(一般公開事業)の展開案

総合フォーラム

- 総合フォーラムは、「東日本大震災の経験と教訓を世界へ」を基本テーマとして、各セッションごとに個別テーマを設定。
- 兵庫行動枠組の優先行動に沿ったテーマ、多様な主体の防災への参画、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた復興等を設定。



東北大学川内萩ホール



シンポジウム・セミナー

- シンポジウム・セミナーは、多様な方々の参画を想定し、東北の複数会場を準備。
- 多様なテーマでのシンポの他に、仙台市では「防災と市民活動」「女性と防災」などの特色あるテーマを重点的に実施

東京エレクトロンホール宮城



仙台市民会館



エル・パーク仙台
(女性と防災 テーマ館)

展示会

- 防災・復興展では、各国、国際機関、被災自治体等が防災・復興に関する展示を実施。
- 宮城県や民間企業と連携し、防災産業展を別会場で同時開催予定。

せんだいメディア・テーク(防災・復興展)



夢メッセみやぎ(防災産業展)



会場イメージ

※仙台市による想定であり、今後変更になる可能性があります

本体会議

新コンベンション施設



仙台国際センター



一般公開事業

東北大・萩ホール



せんだいメディアテーク



エル・パーク



勾当台公園

